

写真で見る第 8 回学会大会(速報)

過去最高の 208 人が参加、初のメディアセッション大好評



日程:2006年10月28日29日

会場:東洋大学6号館

開始前のミーティング





会場設営



受付風景



参加者名札

【開会挨拶】

阿部勝征日本災害情報学会会長



ご承知のように4月に、本学会を創設された廣井脩先生が亡くなられ、葬儀、偲ぶ会を廣井先生が属していた東京大学大学院情報学環と共催しました。そして、廣井先生の功績に鑑み、学会では廣井賞を設けるべく検討しています。

研究発表数が増えたため、今回から2会場にせざるを得なくなりました。ご不満もあるかと思いますが、どうぞお認めいただきたい。

また、今回、初めてメディアセッションを設けることにしました。新たな試みにご期待いただき、会員相互の交流、情報交換の場として役立てていただきたいと思っています。

【研究発表】

2日間にわたって55件の研究発表が行われた。55件はこれまでの最高の発表件数である。

発表時間を確保するために初めて、1日目の午後を2会場に分けたが、両会場ともほぼ同数の参加者があり、活発な質疑が行われた。





【理事会】

第15回理事会が大会1日目の昼に開催され、新会員、廣井賞表彰規程等を承認した。



【総会】

第8回総会が大会2日目に開催された。

議決権を有する会員数 576 人 (2006.10.26 現在) 過半数 289 人 総会出席者 72 人 委任状 266 人



- 議題 1 会員動向、新会員について (報告案件)
- 議題 2 購読会費の値上げなど会則の改正 (承認案件)
- 議題 3 廣井賞の新設について (承認案件)
- 議題 4 廣井賞審査委員会など学会運営規程の改正 (承認案件)
- 議題 5 委員会活動報告 (報告案件)
- 議題 6 2005 年度決算について (承認案件)
- 議題 7 2006 年度予算について (承認案件)
- 議題 8 次回第9回学会大会の島原開催について (報告案件)

【懇親会】



メディアセッション Part 1 自治体とライフライン

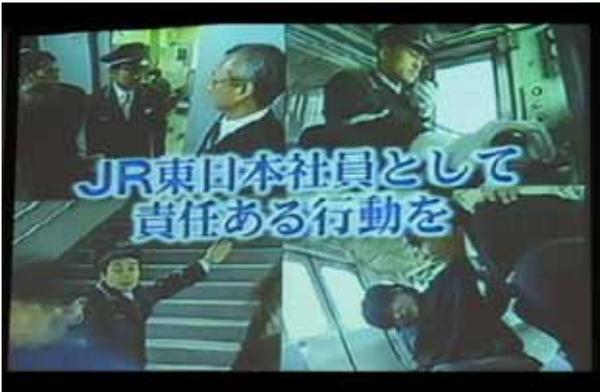


日本災害情報学会は他の学会に比べて大きな特色があります。それはメディアや自治体、ライフラインの防災担当者が多く会員になっていることです。ところが、従来の学会大会での発表だと自分たちが普段やっていることに比べるとちょっと発表しづらい、なじみにくいとの声がありました。そこで普段の取り組んでいる映像、音声コンテンツを災害情報の成果として発表する場を設けました。(山崎 登メディアセッション副部会長)



NTT東日本

タイトル：安心・安全をつなぐNTT東日本
発表者名：NTT東日本災害対策室 東方幸雄
フルバージョン：全6分41秒



JR東日本

タイトル：大地震発生時初動対応の社員向け
啓発ビデオ
発表者：JR東日本安全対策部 南雲 敦
フルバージョン：約5分



東京都

タイトル：東京都における総合防災訓練
発表者：東京都総務局総合防災部 菊地俊夫
フルバージョン：約5分



国土交通省関東地方整備局荒川下流河川事務所

タイトル：荒川下流域でのITツールを用いた
防災訓練
発表者：荒川下流河川事務所 岩田美幸
フルバージョン：30分

メディアセッション Part 2 放送局

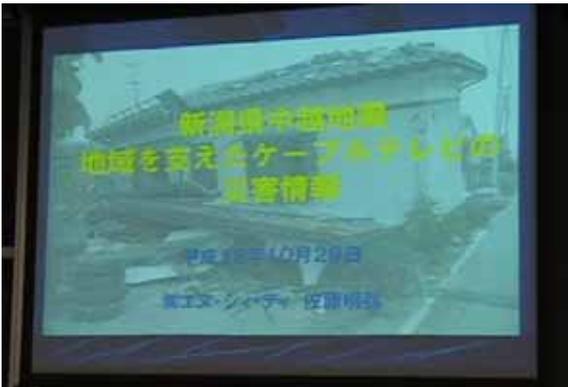


N H K新潟放送局

タイトル：平成 17 年 12 月 22 日の新潟大停電の
対応について

発表者：N H K新潟放送局放送部 羽原順司

フルバージョン：30 分



エヌ・シィ・ティ（新潟・長岡市）

タイトル：新潟県中越地震

地域を支えたケーブルテレビの災害情報

発表者：エヌ・シィ・ティ 佐藤明弘

フルバージョン：6 分



在京ラジオ災害情報担当者会議

及びライフライン 5 社

タイトル：ラジオ災害情報交差点

発表者：文化放送 高橋民夫 J-WAVE 西原暢孝

テープ時間：8 分



M B C 南日本放送

タイトル：7・22 鹿児島県北部豪雨災害特番及び
災害時の情報面の課題

発表者：M B C 南日本放送報道部 有馬正敏

フルバージョン：30 分

メディアセッション総括



初めての試みだったが、いかがでしたか？ 映像や音を使って、どう災害情報の伝達に心を砕いているかが分かっていただけたかと思います。ラジオ災害情報交差点はアイデアだと思います。ライフライン情報の共有化ぐらいは最低限やらねばならないのではないのでしょうか。（藤吉洋一郎メディアセッション部会長）

【閉会挨拶】

田中 淳第 8 回学会大会実行委員長



東洋大学と廣井軍団を中心に企画してきましたが、途中で廣井先生を失ってしまいました。廣井先生に「いいんじゃない」と言っていたら、企画担当者も気が楽だったろうと思います。スタッフも、会員の方々も、甲い合戦に近い気持ちをお持ちだったでしょう。

阿部会長には節目節目にご教授を得て、広報委員会のメンバーには個人的にお手伝いをいただき、ここまでやってきました。

皆さんの活発なご議論、またお力添えに厚くお礼申し上げます。再来年、日本災害情報学会は 10 周年を迎えます。一つの区切り、マイルストーン。10 周年に向けて皆さんのお力をお借りしたい。ありがとうございました。

大会アラカルト

